

平安時代の人形ひとがた

人形と書いて、ここでは「ひとがた」と読みます。写真の人形は、野田地区の野田地区遺跡で発見された平安時代のものです。

人形とは、文字通り人の形をかたどったもので、紙や木などさまざまな素材で作られています。野田地区遺跡の人形は、ヒノキの薄い板に切り込みを入れて、頭や肩、足などを表現しています。大きさも大小あり、小さなものは15cmほど、大きなものは1mを超えるものが出土し



野田地区遺跡出土の人形
左：15.6 cm 右：85.8 cm

ています。

人形は、祭祀さいし（神を祭る儀式のこと）に使用するものと考えられています。古代の人々は、病の原因となる穢けがれや災いをはらうために、身代わりである人形を使用していました。人形で体をなでたり、息を吹きかけたりして穢れを人形に移し、水に流すのが一般的な使用方法です。現在も各地に残る「流し雛ながびな」行事や、「雛人形ひなごころぎやう」のルーツともなるものです。野田地区遺跡の人形も溝跡の中から発見されていることから、水に流したもののようで、古代の人々の祈りを垣間見ることができる資料です。

現在、縄文時代から平安時代にかけての神まつりの道具を集めた企画展が和歌山県立紀伊風土記の丘（和歌山市）で開催中です。野田地区遺跡の人形も展示されていますので、ご観覧ください。

● 紀伊風土記の丘 夏季企画展「古代紀伊の神まつり」
期間／8月29日（日）まで